

【 歌を忘れたカナリヤ（金糸雀） 】 （童話）詩：西城八十
曲：成田為三

♪ 歌を忘れたカナリヤは後ろの山に捨てましょうか
いえいえそれはかわいそう
歌を忘れたカナリヤは背戸の小藪に埋けましょうか
いえいえそれはなりませぬ
歌を忘れたカナリヤは柳の鞭でぶちましょうか
いえいえそれはかわいそう
歌を忘れたカナリヤは象牙の船に銀のかい
月夜の海に浮かべれば忘れた歌を思い出す ♪



注) カナリヤは「カナリア」のこと
米津玄帥「カナリア」ではない

美しい歌です・・・が、過酷で厳しい歌詞でもあります。皆さんはご存じですか！歌を忘れてしまったカナリアには何の価値もないのでしょうか？“いえいえそれはなりませぬ”と否定しています。

この歌は傷つきやすい子供らの心に希望を与えようとして作詞されたものなのです。カナリアはとても弱くフラジャイル（壊れやすい）な存在なのです。かよわく、はかなく、傷つきやすいものの象徴とされました。

そして、カナリアは誰よりもいち早く他のものに危険を知らせる鳥として存在しました。西城八十も自らの創作活動に行き詰まりを抱き、この歌が完成したといわれてきました。

私たちは「強くあらねばならない」と信じ、かよわさ、はかなさ、傷つきやすさは克服すべきものと考えていませんか！むしろ、克服すべきものではなく、寄り添いながら生きていくものではないでしょうか。かよわさ、はかなさ、傷つきやすさは私たちに大切なものを気づかせてくれる大事な能力です。周囲に大切な役割を担っているのです。

歌を忘れたカナリアも自分の居場所を見つけることができれば、再び美しい声歌いだすのではないのでしょうか・・・。

- ◆ 相談日 毎木曜日 午後12時～2時
- ◆ 場所 2号館 4階 学生相談室
- ◆ 担当者 スクールカウンセラー